

# 横須賀海軍工廠時代 (海軍拡張期～軍縮期～無条約時代そして終戦)

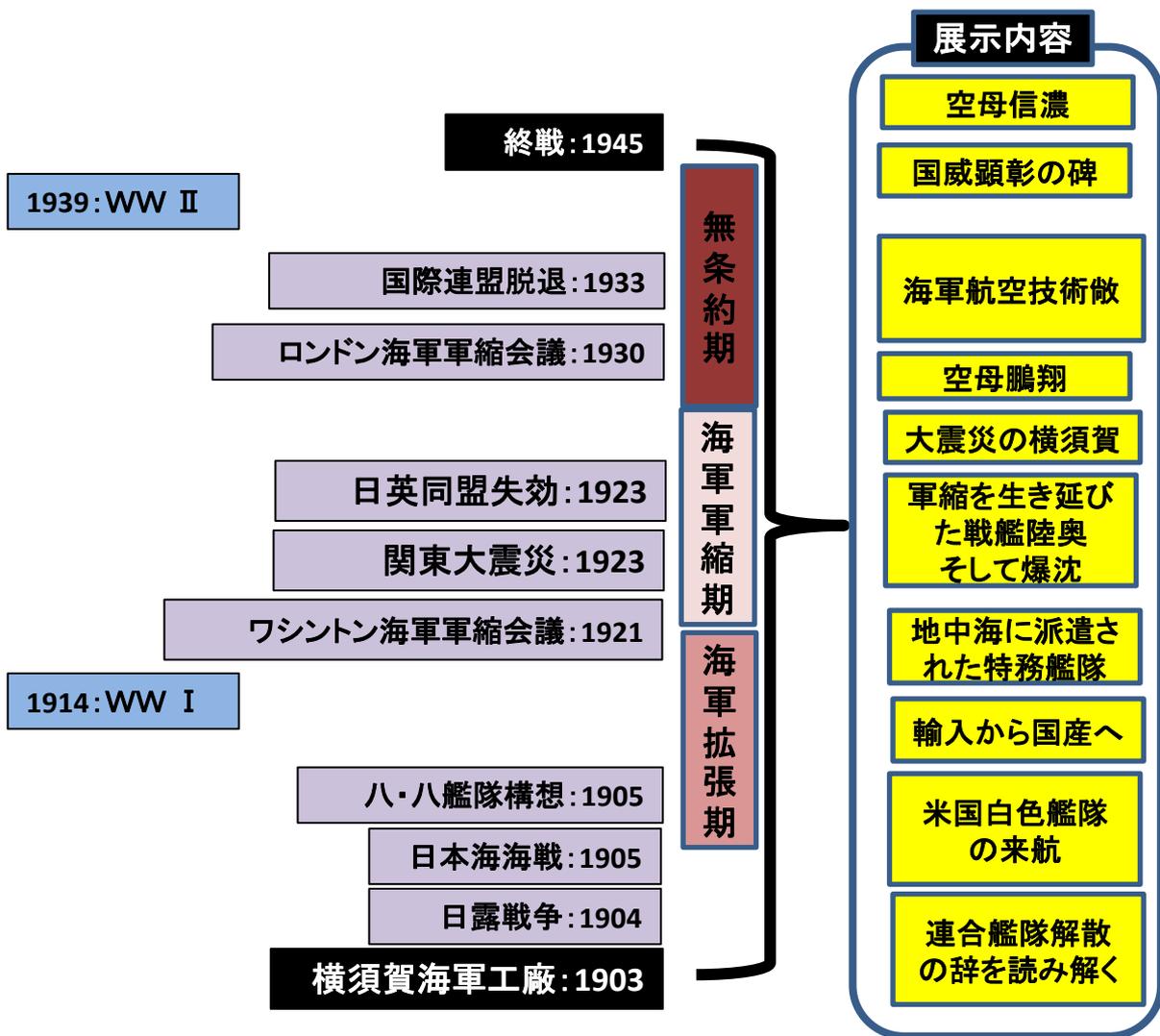
1905年日露戦争の勝利によって、八・八艦隊構想(1907年策定)による海軍拡張期にはいっていきます。

1914年 第一次世界大戦が勃発、その後の国際海軍軍縮条約により、軍縮期に入り、軍艦の削減、工廠の人員削減などが続きます。

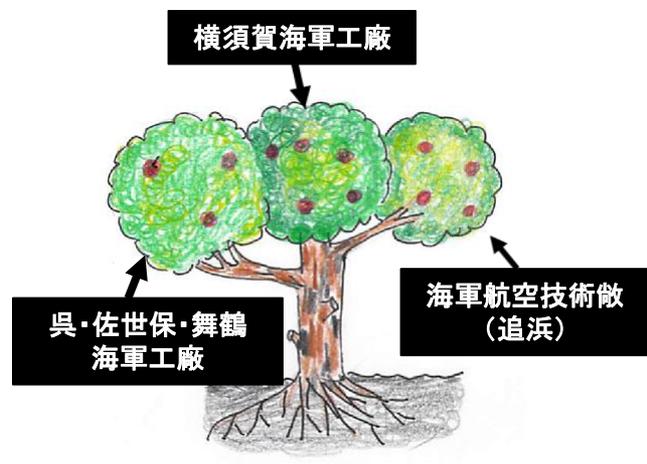
同時に航空機の重要性が認識され、追浜に海軍航空技術廠も開設されます。

1933年国際連盟からの脱退により、無条約状態に入った日本は、再び軍備拡張に舵を切り、1945年の終戦を迎えます。

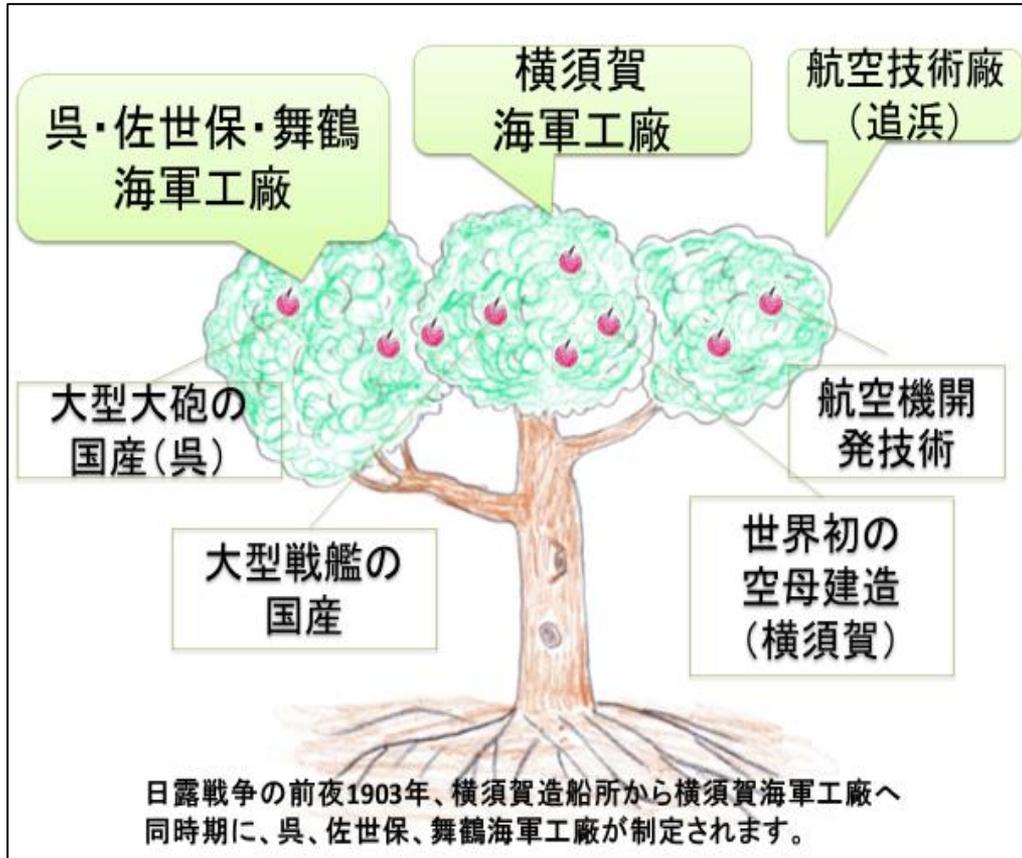
# 横須賀海軍工廠時代



日露戦争に備え、日露戦争前夜(1903)横須賀造船所から横須賀海軍工廠へと名称も変わり組織も大きくなります。同時に呉、佐世保、舞鶴と同時期に海軍工廠ができていきます。艦船も国産化も進んでいきます。



# 横須賀海軍工廠と呉海軍工廠



横須賀造船所時代に取得された海外の大型戦艦のノウハウが、呉等に伝承されていったのでしょうか。そして戦艦と大砲の開発は呉、航空母艦、航空機の開発は横須賀と分業化が進んでいきます。

多分戦艦の開発のための試験には呉のような内海が適していたのではないのでしょうか。また保全上も地方が適していたのかもしれませんが。日本海軍の戦艦の象徴である、長門、大和一番艦は呉で建造されます。一方で航空機の開発には、海軍工廠だけでなく民間の力も結集する必要性から、都心に近い横須賀が適していたのではないのでしょうか。

海軍軍縮時代を挟んで、象徴的なのが、戦艦陸奥と国威顕彰の碑ではないでしょうか。

ヴェルニー公園には「戦艦陸奥の主砲」と公園の片隅に「国威顕彰の碑」があります。

時代の大きなうねり、そして歴史の光と影を感じてもらえればと思います。

